ョハネ第一3:13-24 1John 3:13-24

先週、私たちは「キリストに似た者となる望みをもって」という題で御言葉に聴きました。私たちが神の子どもとされたのは、神の御子である主イエス・キリストに似た者となるためです。私たちは神の子どもであるゆえに天の御国を受け継ぐ者とされています。ですから、神様からそのような特権を受けている私たちですから、終わりの日が来るまで、御子イエスのように自分自身を清くしなくてはいけません。どのような罪からも離れ、常に神様の御心を求めて生きるのです。そうすれば、主の再臨の時には、私たちも主と同じ栄光のからだに変えられます(ピリピ3:21)。この望みをもって、私たちはさらに信仰の歩みを続けさせていただきましょう。

Last week, we listened to the word of the Lord by the title of "Hoping to Be Like Christ" We were made to be children of God to become like Lord Jesus Christ, God's son. Because we are children of God, we are to inherit the Heaven. So because we are given this special privilege from God, we need to purify ourselves like Jesus until the end of the world. Stay away from any sins and always seek God's will. If you do so, our body will be transformed into glorious body just like the Lord at the time of the second coming (Philippians 3:21). Let us continue to walk in faith with this hope.

さて今日のメッセージの内容に入っていきます。主イエスを信じるとは、神様と交わりをもつことです。そして、神様と交わりをもつことは、神のいのちを共有することです。ですから、主イエス・キリストを通して、父なる神様との交わりに生きるなら、私たちは神のいのちを受ける者となり、私たちは死からいのちに移されているのです。では、私たちは自分が死からいのちに移されていることをどのようにして知るのでしょうか?

Let us go on to today's message. Believing in Lord Jesus means to have fellowship with God. To have fellowship with God means to share God's life. Thus, when we live in the fellowship with God the Father through Jesus Christ, we become those that receive God's life and are moved from death to life. So how do we know that we have passed from death to life?

それは14節にあるように、兄弟姉妹を愛することによってです。ここで「兄弟を愛する」というと、何かそれは、私たち自身のうちに愛があるかないかが問われているのように思えます。しかし、どうでしょうか?あなたのうちには分け隔てなく兄弟姉妹を愛する真の愛がありますか?ここで「兄弟」というのは、自分に好意をもってくれる兄弟だけを指しているのではありません。主にあるすべての兄弟姉妹を意味しているのです。

As it is stated in verse 14, we know by loving our brothers and sisters. When we say "love our brothers," we may think that we are asked if we have love within ourselves. What do you think? Do you have the true love that loves brothers and sisters without discriminating? The word "brothers" here does not point only to brothers that are kind to you. It means every brothers and sisters in the Lord.

では、愛とは何でしょうか?私たちはどのようにして愛が何であるかを知るのでしょうか?16節を見てください。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから、私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです」。キリストが私たちのためにご自分のいのちを捨てて下さったこと、それが愛であるとヨハネはいいます。つまり、愛とは自分を犠牲にしてでも他者を大切にするということです。そのような愛は私たちのうちから自然に生まれてきますか?私たちはそれを主イエス・キリストから受けなければなりません。まず自分自身が主の愛を受けることによって、そこから兄弟愛の実践へと向かわされるのです。

Then what is love? How do we know what is love? Look at verse 16. "This is how we know what love is; Jesus Christ laid down his life for us. And we ought to lay down our lives for our brothers." John says that the sacrifice made by Christ is love. It means that love is to care for others even by sacrificing yourself. Does that kind of love come naturally from us? We have to receive it from Lord Jesus Christ. By receiving the love of the Lord, we can love one another.

では、このことを反対から見ると、どうなるでしょうか?私たちは、兄弟を愛している人のうちに、キリストの愛が注がれていることを見ることができます。キリストの愛を受けている人は、そのうちにキリストご自身をもっています。ですから、兄弟を愛する人は、永遠のいのちをもっているのです。そのようにいのちと愛は密接な関係にあるのです。主イエスを信じて、死からいのちに移されている人は、兄弟を愛しますし、すでに兄弟を愛している人は、死からいのちに移されているのです。

Then how will this be if we look at this in opposite perspective? We can see that the love of the Lord is poured onto those that love their brothers. Those that have received the love of the Christ have Christ within them. Thus, those that love their brothers have the eternal lives. Just like this, life and love is in a very close relationship. Those that believe in Lord Jesus and have passed from death to life will love their brothers, and those who love their brothers are passed from death to life.

15節を見てください。そこには厳しい言葉が記されています。「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです」と。もし私たちが自分自身をクリスチャンとしながら、兄弟を愛するのではなく、憎むとしたら、私たちは人殺しであると神様は言われます。人殺しのうちに永遠のいのちがとどまっていないことは当然のことです。いかがでしょうか?あなたのうちには永遠のいのちがとどまっていますか?あなたは自分が死からいのちに移されていることを、兄弟姉妹への愛の行為によって証明することができますか?ヨハネは18節で私たちに勧めています。「私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか」と。

Please look at verse 15. There are very harsh words in this verse. "Anyone who hates his brother is a murderer, and you know that no murderer has eternal life in him." If we call ourselves Christians and not love our brothers but hate them, God says we are murderers. Obviously eternal life does not remain in murderers. What do you think? Does eternal life remain within you? Can you prove that you are passed from death to life by the act of love to your brothers and sisters? John suggests in verse 18: "Let us not love with words or tongue but with actions and in truth."

主イエスは弟子たちに言われました。「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです」(ヨハネ13:35)。主イエスは、ご自分と弟子たちとの間にではなく、弟子同士の間に愛があるならば、すべての人は彼らが主の弟子であることを認めるとおっしゃいました。私たちにとって、自分が信頼し、望みを置いている主イエスに対して愛を示そうとすることはごく当たり前のことです。しかし、その主が愛される兄弟姉妹に対してはどうでしょうか?あなたは主を愛するように、兄弟姉妹を愛していますか?

Lord Jesus said to the disciples, "By this all men will know that you are my disciples, if you love one another" (John 13:35). Jesus said all people will see you are Lord's disciples if there's love among disciples. It is ordinary for us to try to show love to Lord Jesus who we believe and hope in. However, how is it toward brothers and sisters whom the Lord loves? Do you love brothers and sisters just like you love the Lord?

私たちが互いに愛し合う理由、それは私たちのために主イエスがご自分のいのちを捨てて下さったというところにあります。ですから、私たちは兄弟を愛そうとする時に、その人のうちに愛する理由を見つけようとしてはいけません。なぜなら、そこには私たちが互いに憎み合う理由が存在するからです。私たちは相手が自分に対して好意的である時には、愛そうとするのですが、相手の態度が変わるとその心は簡単に憎しみへと変わってしまうのです。

The reason for us to love one another is in the fact that Lord Jesus sacrificed His life for us. Therefore, we shall not try to find the reason to love in brothers when we try to love our brothers. That is because reasons for us to hate each other exist there. We tend to love those that are kind to us but if that attitude changes, our heart can easily change to hate.

ですから、どのような時にも、私たちは主イエスのうちに隣人を愛する理由を見出さなくてはいけません。主がいのちを捨てて私たちを愛して下さったので、私たちも兄弟のためにいのちを捨てるべきなのです。それは私たちが兄弟に対してではなく、主イエスに対して愛の負債を負っているからです。主ご自身が命を捨ててまで愛される兄弟姉妹を私たちが愛さないとするならば、それは主を愛さないことと等しいことです。

Therefore, in any circumstances, we have to find the reason to love our neighbors in Lord Jesus. Because the Lord sacrificed Himself and loved us, we should sacrifice ourselves for our brothers. That is because we owe a debt of love to Jesus, not to brothers. If we do not love brothers and sisters that the Lord sacrificed His life for, then it equates to not loving the Lord.

神の御子である主イエスが、なぜ罪人である私たちのためにご自身の尊いいのちを捨ててくださったのでしょうか?神様に対して私たちが何かそれに相応しいことをしたからでしょうか?神様がご自分を犠牲にしてでも、私たちを愛さなければいけない理由がどこかにあるでしょうか?私たちは神様に背を向けることはあっても、神様に何か貸しをつくるようなことはないと思うのです。しかし、そんな私たちを神様は愛して下さるのです。それは私たちの存在を高価で尊いものとして見て下さるからです。神様は私たちをご自身の愛の対象としてお造りになられました。ですから、私たちが罪の中で滅んでしまうことのないように、私たちの罪の身代わりとして御子イエスにその罪を背負わせることによって、私たちを死からいのちに移して下さったのです。

Why did Lord Jesus, God's Son, lay down His life for us sinners? Is it because we did something to Him that is worthy of His sacrifice? Is there a reason somewhere that God has to love us even by sacrificing Himself? Even if we turn our back to God, I don't think there's anything God owes us. But God loves us. That is because He sees our existence as precious and honored. God made us to be the object of His love. Therefore, He moved us from death to life for us to not be destroyed in sin by putting our sins onto His son Jesus.

使徒パウロは、ローマ書1章14節でこういいます。「私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人にも、返さなければならない負債を負っています」。パウロは、それらの人々に対して実際に何か負債を負っていたのでしょうか?いいえ。彼が主イエスに出会って回心するまでの生き方は、決して人に対して負債をかかえるようなものではありませんでした。では、パウロは誰に対して負債を負っているのでしょうか?それは主イエスに対してです。パウロは、主イエスに対して愛の負債を負っているというのです。つまり、以前の彼はその無知ゆえに神の教会を迫害していましたが、そんな彼を主は滅ぼすのではなく、むしろ愛をもって受け入れ、彼の罪を赦して下さいました。パウロはその主の愛を思う時に、自分は主に対して返しても返しきれない愛の負債を負っていると言っているのです。ですから、彼は主が愛されるあらゆる人々に対して、自分のいのちを喜んでささげました。それが主イエスを愛することだからです。

Apostle Paul says in Rome chapter 1 verse 14: "I am obligated both to Greeks and non-Greeks, both to the wise and the foolish." Did Paul owe some debt to these people? No. His life until he met Jesus and be reformed was nothing that he would owe any debt to anybody. Then who does Paul owe debt to? That is to Lord Jesus. Paul owes the debt of love to Jesus. It means that previous Paul persecuted God's church with his ignorance but God accepted him with love and forgave his sins, not destroying him. When Paul thinks of the Lord's love, he says he owes the debt of love that cannot be returned enough. So he offered his life with pleasure to all people the Lord loves. This act is to love Jesus.

1919年、J.H.コルベ(Kolbe)というアメリカ人宣教師が日本に行きました。彼は平和主義者であったので、しだいに軍国主義化していく日本では、いろいろな面から圧力が加えられ、彼はついに1939年に日本を追われ、フィリピンへ行かなければなりませんでした。フィリピンではパナイ島で伝道活動を続けていましたが、やがて太平洋戦争が始まり、山の中へ逃げました。1943年、彼はシェルマ夫人と他の宣教師たちとともに、日本軍に捕らえられました。そして、まともな取調べもないまま、彼らはスパイ活動をしていた者と断定され、処刑されることになったのです。

In 1919, an American missionary J.H. Kolbe went to Japan. Because he was a pacifist and Japan was becoming more militaristic, he was ejected from Japan in 1939 and had to go to Philippines. He was continuing his mission in Panay Island in Philippines but fled to the mountains when the Pacific War started. In 1943, he was captured by Japanese military along with his wife and other missionaries. Then without any proper investigation, they were determined to be executed for being spies.

処刑の前に彼らには30分だけ時間が与えられました。コルベ宣教師夫妻は、マタイの福音書5-7章の主イエスの山上の説教を一節ずつ交読し、二人心を一つにして祈りました。30分後、彼らは日本刀で首を斬られて殺されました。この事件が起こった時、コルベ宣教師の二人の娘マーガレットとアリスは、勉強のためアメリカに帰国していました。この知らせが彼女たちに届けられると、彼女たちは悲しみに打ちひしがれてしまいました。やがてその悲しみは憎しみに変わり、両親を殺した日本人に対して復讐を考えるようになったのです。けれども、戦時中のことで、近くに日本人はいませんから、すぐにどうすることもできずに時間が経ちました。

Before the execution, they were given 30 minutes. Mr. and Mrs. Kolbe read Jesus' sermon on the mountain in Matthew chapters 5 to 7 together and they prayed together in one heart. Thirty minutes later, their heads were cut off by a Japanese sword. When this incidence occurred, their two daughters Margaret and Alice were back in the United States for their studies. When this news reached them, they were crushed with sorrows. Eventually the sorrow became hatred and they started to think of revenge against Japanese people that killed their parents. However, since there were no Japanese people around during the war, no action was taken and only time passed by.

毎日、悲しみと憎しみの中で神様に祈っていた彼女たちですが、ある日、祈りながら、ふとこんなことを考えました。「両親は日本の軍人に殺される前に、いったい何について祈っていたのだろうか」と。そのことを考え始めると、どうしても二つのことに思い至るのです。一つは、彼らが殺害されるまで伝道をしていたフィリピン人の救いのため、そして、両親を自国から追放し、彼らを殺した日本人の救いのためです。そう考えると、彼女たちは自分たちの願いと思いが、両親の最後の祈りと全く反対のことであったことに気づかされたのです。

They prayed to God everyday with sorrow and hatred, but one day, a question came to their mind as they were praying; "What were our parents praying about before they were killed by the Japanese soldier?" Whenever they thought about this, they always reached two answers. One is for the salvation of Philippians that their parents were on mission for. And the other was for Japanese people who kicked them out of their country and killed them. From this, they realized that their mind and wish were completely opposite from their parents' last prayer.

けれども、そう簡単に憎しみは取り去られるものではありません。悶々とした毎日を過ごしているうちに、今日の16節の御言葉に出会うのです。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから、私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです」。マーガレットはこの御言葉通り、ボランティアを志願して、捕虜収容所にいる日本の軍人の身の回りの世話をして、彼らに愛を示したのです。当然、彼女のことは日本人捕虜たちの間で話題になりました。ある時、マーガレットはその理由を聞かれ、それまでの経緯を説明し、聖書の御言葉を彼らに話して聞かせました。

However, hatred cannot be easily removed. While they spend everyday agonizing, they meet the God's word in today's verse 16. "This is how we know what love is; Jesus Christ laid down his life for us. And we ought to lay down our lives for our brothers." As it is said in this verse, Margaret volunteered to care for captured Japanese soldiers and showed love to them. Of course, she became a person who is much talked about among captive Japanese soldiers. One day, Margaret was asked about the reason to her act, and she explained her story and told them the words in the Bible.

残念ながら、彼らには復讐ではなく、赦しと愛という彼女の心が理解できませんでした。 しかし、このことを後に伝え聞いた真珠湾攻撃の爆撃隊長であった淵田美津雄元海軍大佐は、それを機にマーガレットの人生を変えた聖書を手にして読んだのです。そして、ルカ23章34節の「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです」の御言葉によって彼は神の愛に捕らえられたのです。その時、彼もまたうちにある憎しみが愛に変えられ、クリスチャンとなりました。そして、残りの人生を兄弟を愛するキリストのしもべとして生きたのです。ちなみに、コルベ宣教師のもう一人の娘アリスは、自分で働いた一年分の給料を日本伝道のためにささげたといわれています。キリストの愛は、私たちを内側から新しく造り変えます。その愛は、今日も私たちに注がれています。その愛を知る者として、私たちは行いと真実をもって互いに愛し合おうではありませんか。

Unfortunately, they could not understand her heart of forgiveness and love instead of revenge. However, former Navy general Mitsuo Fuchida, the commander of the attack of Pearl Harbor, heard about this later and was led to read the Bible that changed Margaret's life. He was captured in God's love through the words in Luke 23:34: "Father, forgive them, for they do not know what they are doing." At this moment, the hatred in him was also changed to love, and he became a Christian. He lived the rest of his life as a servant of Christ, loving his brothers. On the side note, it is told that Alice, the other daughter of Kolbe, gave a year worth of her salary to mission in Japan. Christ's love will renew us from inside. This love is being poured onto us today. As people who know this love, let us love one another with actions and in truth.